

地区便り

山口島根地区

*4年ぶりの乙女峠まつり

コロナも終息し、4年ぶりに乙女峠まつりを再開することができました。多くの方々の助けをいただき成し遂げられたことを感謝いたします。

津和野カトリック教会から乙女峠までの道程を約千人の信者の皆さんが祈りと共に行列する姿は素晴らしい光景です。乙女峠に流配された人々は、どのような思いで廿日市から乙女峠まで歩かれたのだろうと彼らの信仰心に思いを馳せませす。乙女峠37人の信仰を忘れることなく、その意志を受け継ぎ、列聖されますように祈っています。



中央、ミサの主司式をされる前田万葉枢機卿(大阪教区長)、その右隣、白浜満司教。その他広島教区だけでなく各地から多くの司祭が集まり共にミサが捧げられた。

岡山鳥取地区

*さあ、動き出します

□青年連合チーム

今年度から岡山鳥取青年連合の代表になりました、齋藤です。今まで新型コロナウイルスの影響で、活動に制限があり、オンライン上での分かち合いなどしかできませんでした。これから少しずつ、以前のように対面で、活発な活動をしていきたいと思っています。

コロナの間に洗礼を受け、新たに青年のメンバーに加わった人もいますが、まだ直接会ったことのない人もいますので、そのメンバーで、B B Qなど、食事を交えて今後の青年活動について話し合いたいと思います。

また、コロナ前から、ノートルダム清心女子大学のカトリック研究会の学生の方々に教会にお招きして、交流を行いたいという計画をしていました。随分間が空いてしまいました。連絡をとり交流の場を持ちたいと思います。

□平和推進チーム

聖職者による核兵器反対の平和行動ドキュメントの映画「シスターと神父と爆弾」を希望小教区で巡回映写会を実施します。

□養成チーム

5月20日から臨時の奉仕者養成講座開催(全6回) テーマ「信徒の奉仕職」共に歩み 共に参加し 共に宣教しよう今年は無事に対面講座となりました。

68 海峡からの風

下関労働教育センターだより

3月の終わりに、フランスのルルドで、カトリック労働者運動の総会があり、日本アセオの国際担当の信者さんに同伴して、参加しました。宿泊している丘の上にある施設から20分ほど降りていくとルルドの泉があるという恵まれた場所です。時間は、出会いにも恵まれていました。カトリック労働者運動の輝ける特徴の一つは、自分の日々の振り返りの中に、社会の中にある光と闇を見るところ、断し、社会に対しての行動を起こしていくということにあります。ですから、どのように社会の弱者に連帯し、平和を作っていくのかということが一貫したテーマとしてあり、そこに集まっている人たちから学ぶことも多くありました。ドイツ人の神父さんでクリストフさんという方がいらっしやいました。彼は、「橋になりたい」という言葉を何度も分かち合ってくれました。そして、食事で隣に座った時は、聖クリストファーが、幼いイエスを背負って川の向こう岸へと渡ったように、自分の名前の通り、人々を向こう岸へと渡していく使命があるのだという話をしてくれました。心に残っています。

センターは、「出会いの文化を育む使命を担っていただく」と言ってくれました。それから私にとっては「出会い」の場所(ルルド)を作っていくということの使命を胸に刻んでいます。そして、点である出会いが線で結びついて実りとなるということを体験してきました。フランスの旅から帰ってきて、感動的なことがありました。日韓の青年たちの交流をコロナ禍の中でオンラインで続けてきたのですが、韓国の青年たちに同伴している友人のカン・ジュソク神父さんと、韓国のウイジョン神父の司教、そして神父さんが働いているカトリック東北アジア平和研究所に關わる神父と信者さんたちのグループが下関を訪れ、朝鮮学校を訪ね、宇部の長生炭鉱跡で祈り、広島の世界平和記念聖堂で白浜司教さまとミサを捧げました。最後に白浜司教さまが、日本人として深くみなさんにお詫びしたいとおっしゃられたことは、韓国からの平和巡礼者たちの心を打ちました。そして、核廃絶のために、韓国、アメリカ、日本の司教たちが心をあわせてメッセージを発していきましようという励ましは、どれだけ大きな励みとなったことでしょうか。その場にいられたことに大きな喜びを感じながら、出会いと、向こう岸への橋となっていくという使命をより深く生きていきたいと思えます。(中井淳神父)